

核融合炉・遮蔽定数サブW. G. (DDX)

第 2 回会合議事録

1. 日 時 昭和56年7月29日(水) 13:30~15:30
2. 場 所 原研東海研, 研究2棟222号室
3. 出席者
中沢(東大), 菊地, 山野, 大山(原研), 南(富士通)

4. 配布資料

DDX の仕様について(大山, 井口)

5. 議 事

本日の会合趣旨は, DDX 計算手順の定式化を中心に仕様を検討することにあるとの説明の後, 以下の検討がなされた。

- ① 先回(6/17)の宿題であった DDX 計算手順の定式化につき大山委員より資料を用いて説明がなされた。ここで定式化された方式は入射エネルギー, 散乱角を与えて散乱後のエネルギー分布の形でまとめるという提案であった。この方式は実測値との比較などには都合の良い方式であるが, 計算上非弾性散乱の閾値のあたりでのエネルギー分割の方法によっては, 規格仕上の問題を生ずることなどが議論された。
- ② 代替案として, 入射エネルギー, 散乱後のエネルギー範囲を与えて対応する散乱角分布の形でまとめる方式が検討され, この手順を採用している RADHEAT/V-4 システムの FAIR-CROSS コードの概要について山野委員より説明がなされた。
- ③ 以上の検討の後, FAIR-CROSS を修正して DDX 作製コードを作る方向で更に内容をつめることとした。そのため, 山野, 南委員でこの修正が可能かどうか検討して戴き, その結果をもとに次回の sub W. G. で最終仕様をとりまとめることとした。
- ④ なお, 関連して NITRAN コードの DDX 作製仕様調査を中沢委員が, 又, RADHEAT/V-4 システム使用の可否調査を菊地委員が担当することになった。

以上